



UBSグローバル株式厳選投資ファンド  
Aコース（ダイワ投資一任専用）／  
Bコース（ダイワ投資一任専用）

第4期 運用報告書（全体版）  
決算日 2020年6月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）／Bコース（ダイワ投資一任専用）」は、去る6月15日に第4期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。  
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町1-5-1  
大手町ファーストスクエア イーストタワー

<お問い合わせ先>

投信営業部

03-5293-3700

<受付時間>

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

<http://www.ubs.com/japanfunds>

© UBS 2020。キーンソール及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

\* 当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式		
信託期間	無期限（2016年9月26日設定）		
運用方針	この投資信託は、UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、日本を除く世界の株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、実質外貨建資産について、Aコースでは原則として対円で為替ヘッジを行い、Bコースでは為替ヘッジを行いません。		
主要運用対象	ベビーファンド	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。	
	マザーファンド	主として日本を除くグローバル株式を投資対象とします。	
組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。	
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には制限を設けません。	
分配方針	毎決算時（毎年6月15日。ただし、休業日の場合は翌営業日とします。）に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。		

UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）

\* 設定以来の運用実績 \*

決算期	基準価額 (分配前)		期中 騰落率	ベンチマーク 騰落率	期中 騰落率	株式組入 比率	投資信託 証券組入 比率	純資産 総額
	円	%						
(設定日) 2016年9月26日	10,000	—	—	10,000	—	—	—	400
1期(2017年6月15日)	10,993	0	9.9	11,373	13.7	95.7	—	461
2期(2018年6月15日)	12,794	0	16.4	12,718	11.8	99.3	—	979
3期(2019年6月17日)	13,343	0	4.3	13,036	2.5	96.1	1.2	1,568
4期(2020年6月15日)	13,984	0	4.8	13,342	2.4	97.4	—	4,491

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注4) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注5) ベンチマーク（MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ヘッジ・円換算ベース））は、設定日を10,000として指数化しております。

\* 当期中の基準価額等の推移 \*

年月日	基準価額		ベンチマーク		株式組入 比率	投資信託 証券組入 比率
	円	%	円	%		
(期首) 2019年6月17日	13,343	—	13,036	—	96.1	1.2
6月末	13,510	1.3	13,203	1.3	93.2	1.1
7月末	13,850	3.8	13,523	3.7	92.6	1.2
8月末	13,498	1.2	13,128	0.7	96.4	1.3
9月末	13,284	△0.4	13,359	2.5	95.4	0.8
10月末	13,500	1.2	13,664	4.8	99.1	—
11月末	13,907	4.2	14,111	8.2	98.5	—
12月末	14,259	6.9	14,444	10.8	99.6	—
2020年1月末	14,578	9.3	14,561	11.7	98.6	—
2月末	13,478	1.0	13,397	2.8	98.7	—
3月末	12,191	△8.6	11,515	△11.7	95.9	—
4月末	13,367	0.2	12,857	△1.4	94.0	—
5月末	13,902	4.2	13,286	1.9	98.5	—
(期末) 2020年6月15日	13,984	4.8	13,342	2.4	97.4	—

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 騰落率は期首比です。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注4) ベンチマーク（MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ヘッジ・円換算ベース））は、設定日を10,000として指数化しております。

\* 当期の運用状況 \*

< 当期の基準価額等の推移 >

(2019年6月17日から2020年6月15日)



※ベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で641円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+4.8%となりました。

投資環境について

当期のグローバル株式市場は小幅ながら上昇しました。市場別では、米国市場が上昇の牽引役となった一方、欧州市場は低迷しました。2019年後半から2020年序盤にかけては、米中貿易摩擦や英国の欧州連合（EU）離脱などの問題に進展が見られたこと、また米国を中心とした堅調な景気動向と企業業績などに支えられて、グローバル株式市場は上昇基調をたどりまし。しかし2020年の2月後半、中国で発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と経済活動の停滞に対する懸念から、リスク回避の動きが急速に強まり、グローバル株式市場は急落しました。3月後半以降は、各国政府・中央銀行による危機対応への評価、そして経済活動再開への期待などから、グローバル株式市場は米国を中心に反発しました。6月に入り、新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒感から、グローバル株式市場の値動きが不安定になる局面もありましたが、結局、前期末をわずかに上回る水準で期末を迎えました。

**運用経過**

**<当ファンドのポートフォリオについて>**

当ファンドは、期を通じてUBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド受益証券を高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行いました。また、運用の基本方針にしたがい、対円で為替ヘッジを行うことで為替変動リスクの低減を図りました。

**<マザーファンドのポートフォリオについて>**

当ファンドは、日本を除く世界の株式を主要対象とし、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。なお、為替ヘッジは行っていません。

**○期中の主な動き**

**(1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄**

情報技術では、コロナ禍で加速する世界的な電子決済へのシフトと高い参入障壁を評価する米クレジットカード会社のマスターカードを買い増したほか、幅広い業界で進行するデジタル化への移行を取り込み、中期的な業績拡大局面が続くと見る米ITサービス大手のアクセンチュアや、クレジット／デビットカード利用の構造的拡大から恩恵を受ける米電子決済サービス会社のグローバル・ペイメントズなどの新規購入により、セクターウェイトを大きく引き上げました。また素材では、寡占化の進行による競争環境の安定で業績の下方耐性が強まった一方、経済活動の停滞を嫌気して過度に割安度の高まった産業ガス会社、米エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズと仏エア・リキッドの新規購入により、セクターウェイトを引き上げています。

**(2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄**

エネルギーについては、シェール増産による需給悪化（原油価格の下落要因）や、ESG投資が拡大する中での売り圧力の高まり、そして新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済の停滞とその回復を巡る不透明感など、業界を取り巻く環境が厳しさを増すことから、セクター全体として市場平均に出遅れる期間が長期化する可能性が高いと判断、英蘭オイル・メジャーのロイヤル・ダッチ・シェル、同じく英オイル・メジャーのBP、およびカナダの大手石油会社であるサンコー・エナジーをいずれも全売却とし、セクターウェイトを大幅に引き下げました。

※業種はMSCI分類に準拠しています。

**<基準価額の主な変動要因>**

当ファンドの基準価額の上昇要因は、組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したことです。当期のマザーファンドの基準価額は、主に組入株式の株価上昇などのプラス要因が、その他のマイナス要因を上回ったことにより、値上がりしました。

**<ベンチマークとの差異について>**

当期中の騰落率は、基準価額の+4.8%に対してベンチマークが+2.4%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を2.4%上回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を上回った要因は、組入マザーファンドの保有株式において、資本財・サービスセクターのアンダーウェイトやヘルスケアおよび情報技術セクターのオーバーウェイトがプラスに寄与したことなどです。

**分配金について**

当期は、市況動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**分配原資の内訳**

(1万口当たり・税引前)

項目	第4期
	2019年6月18日～2020年6月15日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	(－%)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	3,983円

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
- (注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下四捨五入して算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

**<投資環境の見通し>**

グローバル株式は、もみ合う展開を予想します。米国では、一連の経済支援策に加え、金融緩和とマネーが株式市場を押し上げています。想定以上の景気回復への期待は高いものの、全ての業種で収益が急回復する可能性は低く、新型コロナウイルス禍の中でも成長が期待できる業種・銘柄の選別が一層進むと見えています。今後は、企業業績の発表や大統領選の動向に関心が集まると見られ、楽観論や割高感が強まる中で、投資家の強気センチメントが急変する展開も想定されます。欧州では、欧州復興基金への期待から欧州株式を見直す動きは継続すると見えています。また、金融・財政政策の両面において、想定を超える結果と実施に期待が高まっています。一方、企業収益に関しては、経済活動休止の長期化を反映した業績見通しの下方修正は避けられず、欧州経済の回復に頓挫の兆しが見えた場合は、投資家心理が急速に冷え込む可能性も意識しておくべきでしょう。

**<当ファンドの今後の運用方針>**

引き続きマザーファンドを高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいります。

**<マザーファンドの今後の運用方針>**

上記の見通しを踏まえ、引き続き、世界の株式に投資を行い、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指してまいります。

\* 1万口当たりの費用明細 \*

項目	当期 2019/6/18～2020/6/15		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	137円	1.006%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は13,610円です。
（投信会社）	(119)	(0.875)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(15)	(0.109)	運用報告書等各種書類の交付、口内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(3)	(0.022)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	7	0.051	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(7)	(0.051)	株式などを取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	6	0.043	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（株式）	(6)	(0.043)	有価証券売買の都度発生する取引に関する税金
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
その他費用	9	0.069	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.017)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(3)	(0.021)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(4)	(0.030)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.001)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	159	1.169	

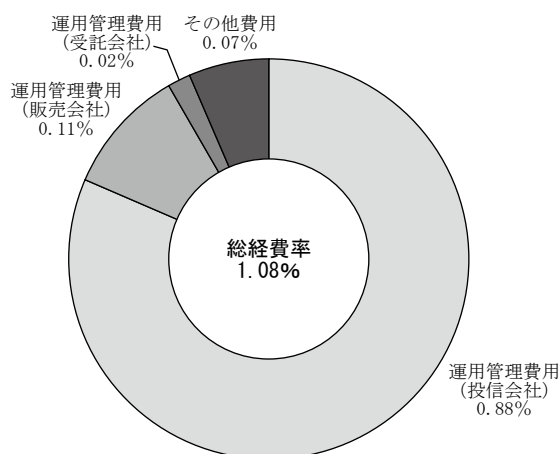
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



(注1) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注2) 各比率は、年率換算した値です。

(注3) 上記の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

\* 親投資信託受益証券の設定、解約状況 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
UBSグローバル・オポチュニティー (除く日本) 株式マザーファンド	1,859,282	3,035,000	128,800	200,000

(注) 単位未満は切り捨て。

\* 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 \*

項 目	当 期
	UBSグローバル・オポチュニティー (除く日本) 株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	138,178,925千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	64,665,304千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	2.13

(注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）／Bコース（ダイワ投資一任専用）

\* 利害関係人等との取引状況等 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

(1) 期中の利害関係人等との取引状況

期中における利害関係人等との取引はありません。

(2) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおける期中の利害関係人等との取引状況

期中における利害関係人等との取引はありません。

(3) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおける利害関係人等である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種 類	買 付 額
株 式	百万円 256

(4) 売買委託手数料総額に対する利害関係人等への支払比率

該当事項はありません。

※利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等であり、当ファンドに係る利害関係人等とはユービーエス・エイ・ジー（銀行）です。

\* 組入資産の明細 \*

親投資信託残高

(2020年6月15日現在)

項 目	期 首 当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド	千口 991,382	千口 2,721,864	千円 4,483,999

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

\* 投資信託財産の構成 \*

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド	千円 4,483,999	% 99.0
コール・ローン等、その他	47,048	1.0
投資信託財産総額	4,531,047	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（66,277,685千円）の投資信託財産総額（66,773,606千円）に対する比率は99.3%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=107.24円、1カナダ・ドル=78.66円、1ユーロ=120.68円、1イギリス・ポンド=134.14円、1スイス・フラン=112.71円、1スウェーデン・クローネ=11.48円、1デンマーク・クローネ=16.19円、1オーストラリア・ドル=73.06円、1香港ドル=13.84円、100韓国ウォン=8.88円、1南アフリカ・ランド=6.24円です。

\* 資産、負債、元本及び基準価額の状況 \*

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	9,416,440,753円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	37,928,946
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド(評価額)	4,483,999,295
未 収 入	4,894,512,512
(B) 負 債	4,925,437,163
未 払	4,910,619,417
未 払 信 託 報 酬	14,141,331
未 払 利 息	107
そ の 他 未 払 費 用	676,308
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	4,491,003,590
元 本	3,211,568,777
次 期 繰 越 損 益 金	1,279,434,813
(D) 受 益 権 総 口 数	3,211,568,777口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C/D)	13,984円

(注記事項)

期首元本額	1,175,335,353円
期中追加設定元本額	2,402,094,435円
期中一部解約元本額	365,861,011円
1口当たり純資産額	1.3984円

\* 損益の状況 \*

(自2019年6月18日 至2020年6月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 13,842円
支 払 利 息	△ 13,842
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	115,283,809
売	272,052,184
買	△ 156,768,375
(C) 信 託 報 酬 等	△ 24,488,410
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	90,781,557
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	134,044,978
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,054,608,278
(配 当 等 相 当 額)	( 773,116,822)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 281,491,456)
(G) 計 (D+E+F)	1,279,434,813
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	1,279,434,813
追 加 信 託 差 損 益 金	1,054,608,278
(配 当 等 相 当 額)	( 777,060,839)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 277,547,439)
分 配 準 備 積 立 金	224,826,535

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益（25,159,423円）、費用控除後の有価証券等損益額（65,622,134円）、信託約款に規定する収益調整金（1,054,608,278円）および分配準備積立金（134,044,978円）より分配対象収益は1,279,434,813円（10,000口当たり3,983円）ですが、分配を行っておりません。

UBSグローバル株式厳選投資ファンドBコース（ダイワ投資一任専用）

\* 設定以来の運用実績 \*

決算期	基準価額 (分配額)	税込み 分配金	期中 騰落率	ベンチマーク 期中 騰落率	株式組入 率	投資信託 証券組入 率	純資産 総額
(設定日) 2016年9月26日	円 10,000	円 -	% -	10,000	% -	% -	百万円 400
1期(2017年6月15日)	12,000	0	20.0	12,428	24.3	97.2	322
2期(2018年6月15日)	14,467	0	20.6	14,278	14.9	98.8	863
3期(2019年6月17日)	15,082	0	4.3	14,483	1.4	97.2	1,351
4期(2020年6月15日)	15,809	0	4.8	14,846	2.5	97.1	2,612

(注1) 基準価額は1万円当たり。  
 (注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。  
 (注3) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。  
 (注4) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。  
 (注5) ベンチマーク(MSCI コクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース))は、設定日を10,000として指数化しております。

\* 当期中の基準価額等の推移 \*

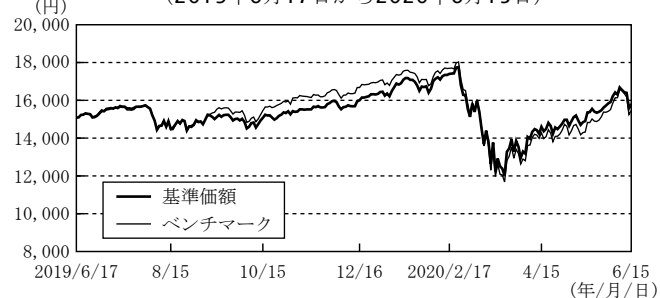
年月日	基準価額		ベンチマーク		株式組入 率	投資信託 証券組入 率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首) 2019年6月17日	円 15,082	% -	14,483	% -	97.2	1.2
6月末	15,185	0.7	14,627	1.0	94.7	1.1
7月末	15,641	3.7	15,030	3.8	93.7	1.2
8月末	14,948	△0.9	14,287	△1.4	96.4	1.3
9月末	14,936	△1.0	14,749	1.8	94.1	0.8
10月末	15,422	2.3	15,340	5.9	96.2	-
11月末	15,973	5.9	15,915	9.9	97.8	-
12月末	16,452	9.1	16,401	13.2	98.6	-
2020年1月末	16,741	11.0	16,425	13.4	98.0	-
2月末	15,534	3.0	15,142	4.5	99.0	-
3月末	13,854	△8.1	12,873	△11.1	97.5	-
4月末	14,972	△0.7	14,143	△2.3	96.8	-
5月末	15,721	4.2	14,757	1.9	97.7	-
(期末) 2020年6月15日	15,809	4.8	14,846	2.5	97.1	-

(注1) 基準価額は1万円当たり。  
 (注2) 騰落率は期首比です。  
 (注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。  
 (注4) ベンチマーク(MSCI コクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース))は、設定日を10,000として指数化しております。

\* 当期の運用状況 \*

< 当期の基準価額等の推移 >

(2019年6月17日から2020年6月15日)



\* ベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で727円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+4.8%となりました。

投資環境について

当期のグローバル株式市場は小幅ながら上昇しました。市場別では、米国市場が上昇の牽引役となった一方、欧州市場は低迷しました。2019年後半から2020年序盤にかけては、米中貿易摩擦や英国の欧州連合(EU)離脱などの問題に進展が見られたこと、また米国を中心とした堅調な景気動向と企業業績などに支えられて、グローバル株式市場は上昇基調をたどりました。しかし2020年の2月後半、中国で発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と経済活動の停滞に対する懸念から、リスク回避の動きが急速に強まり、グローバル株式市場は急落しました。3月後半以降は、各国政府・中央銀行による危機対応への評価、そして経済活動再開への期待などから、グローバル株式市場は米国を中心に反発しました。6月に入り、新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒感から、グローバル株式市場の値動きが不安定になる局面もありましたが、結局、前期末をわずかに上回る水準で期末を迎えました。

運用経過

< 当ファンドのポートフォリオについて >

当ファンドは、期を通じてUBSグローバル・オポチュニティー(除く日本)株式マザーファンド受益証券を高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行いました。また、運用の基本方針にしたがって、為替ヘッジは行っておりません。

< マザーファンドのポートフォリオについて >

当ファンドは、日本を除く世界の株式を主要対象とし、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。なお、為替ヘッジは行っておりません。

○ 期中の主な動き

(1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄  
 情報技術では、コロナ禍で加速する世界的な電子決済へのシフトと高い参入障壁を評価する米クレジットカード会社のマスターカードを買い増したほか、幅広い業界で進行するデジタル化への移行を取り込み、中期的な業績拡大局面が続くと見る米ITサービス大手のアクセンチュアや、クレジットカード/デビットカード利用の構造的拡大から恩恵を受ける米電子決済サービス会社のグローバル・ペイメントズなどの新規購入により、セクターウェイトを大きく引き上げました。また素材では、寡占化の進行による競争環境の安定で業績の下方耐性が強まった一方、経済活動の停滞を嫌気して過度に割安度の高まった産業ガス会社、米エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズと仏エア・リキッドの新規購入により、セクターウェイトを引き上げています。

(2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄  
 エネルギーについては、シェール増産による需給悪化(原油価格の下落要因)や、ESG投資が拡大する中での売りの高まり、そして新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済の停滞とその回復を巡る不透明感など、業界を取り巻く環境が厳しさを増すことから、セクター全体として市場平均に出遅れる期間が長期化している可能性が高いと判断、英蘭オイル・メジャーのロイヤル・ダッチ・シェル、同じく英オイル・メジャーのBP、およびカナダの大手石油会社であるサンコ・エナジーをいずれも全売却とし、セクターウェイトを大幅に引き下げました。

※ 業種はMSCI分類に準拠しています。

< 基準価額の主な変動要因 >

当ファンドの基準価額の上昇要因は、組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したことです。当期のマザーファンドの基準価額は、主に組入株式の株価上昇などのプラス要因が、その他のマイナス要因を上回ったことにより、値上がりしました。

< ベンチマークとの差異について >

当期中の騰落率は、基準価額の+4.8%に対してベンチマークが+2.5%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を2.3%上回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を上回った要因は、組入マザーファンドの保有株式において、資本財・サービスセクターのアンダーウェイトやヘルスクエアおよび情報技術セクターのオーバーウェイトがプラスに寄与したことなどです。

分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(1万円当たり・税引前)

項目	第4期	
	2019年6月18日～2020年6月15日	
当期分配金	-円	
(対基準価額比率)	( -%)	
当期の収益	-円	
当期の収益以外	-円	
翌期繰越分配対象額	5,808円	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「配当調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。  
 (注2) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。  
 (注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

< 投資環境の見通し >

グローバル株式は、もみ合う展開を予想します。米国では、一連の経済支援策に加え、金融緩和マネーが株式市場を押し上げています。想定以上の景気回復への期待は高いものの、全ての業種で収益が急回復する可能性は低く、新型コロナウイルス禍の中でも成長が期待できる業種・銘柄の選別が一層進むと見えています。今後は、企業業績の発表や大統領選の動向に関心が集まると見られ、楽観論や割高感が強まる中で、投資家の強気センチメントが急変する展開も想定されます。欧州では、欧州復興基金への期待から欧州株式を見直す動きは継続すると見えています。また、金融・財政政策の両面において、想定を超える結束と実施に期待が高まっています。一方、企業収益に関しては、経済活動休止の長期化を反映した業績見通しの下方修正は避けられず、欧州経済の回復に頓挫の兆しが見えた場合は、投資家心理が急速に冷え込む可能性も意識しておくべきでしょう。

< 当ファンドの今後の運用方針 >

引き続きマザーファンドを高位に組入れ、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいります。

< マザーファンドの今後の運用方針 >

上記の見通しを踏まえ、引き続き、世界の株式に投資を行い、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指してまいります。

\* 1万口当たりの費用明細 \*

項目	当期 2019/6/18～2020/6/15		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	155円	1.006%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は15,448円です。
（投信会社）	(135)	(0.875)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(17)	(0.109)	運用報告書等各種書類の交付、口内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(3)	(0.022)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	7	0.045	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(7)	(0.045)	株式などを取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	6	0.041	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（株式）	(6)	(0.041)	有価証券売買の都度発生する取引に関する税金
（投資信託証券）	(0)	(0.000)	
その他費用	10	0.067	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(3)	(0.016)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(3)	(0.021)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(5)	(0.029)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.001)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	178	1.159	

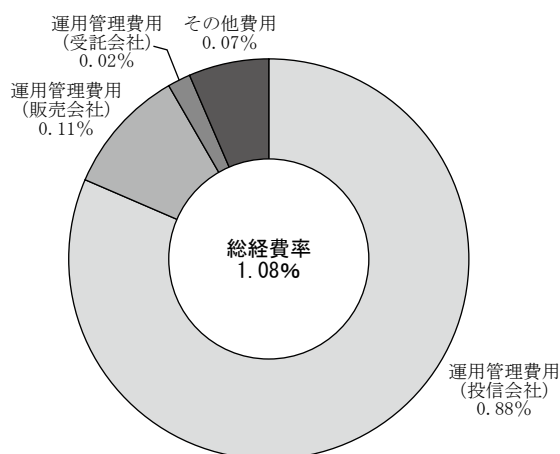
(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



(注1) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注2) 各比率は、年率換算した値です。

(注3) 上記の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

\* 親投資信託受益証券の設定、解約状況 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
UBSグローバル・オポチュニティー (除く日本) 株式マザーファンド	859,718	1,393,000	146,043	225,000

(注) 単位未満は切り捨て。

\* 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 \*

項 目	当 期
	UBSグローバル・オポチュニティー (除く日本) 株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	138,178,925千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	64,665,304千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	2.13

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）／Bコース（ダイワ投資一任専用）

\* 利害関係人等との取引状況等 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

(1) 期中の利害関係人等との取引状況

期中における利害関係人等との取引はありません。

(2) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおける期中の利害関係人等との取引状況

期中における利害関係人等との取引はありません。

(3) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおける利害関係人等である金融商品取引業者が主幹事となって発行される有価証券

種 類	買 付 額
株 式	百万円 256

(4) 売買委託手数料総額に対する利害関係人等への支払比率

該当事項はありません。

※利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等であり、当ファンドに係る利害関係人等とはユービーエス・エイ・ジー（銀行）です。

\* 組入資産の明細 \*

親投資信託残高

(2020年6月15日現在)

項 目	期 首 当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド	千口 864,106	千口 1,577,781	千円 2,599,237

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

\* 投資信託財産の構成 \*

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド	千円 2,599,237	% 99.0
コール・ローン等、その他	25,421	1.0
投資信託財産総額	2,624,658	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（66,277,685千円）の投資信託財産総額（66,773,606千円）に対する比率は99.3%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=107.24円、1カナダ・ドル=78.66円、1ユーロ=120.68円、1イギリス・ポンド=134.14円、1スイス・フラン=112.71円、1スウェーデン・クローネ=11.48円、1デンマーク・クローネ=16.19円、1オーストラリア・ドル=73.06円、1香港ドル=13.84円、100韓国ウォン=8.88円、1南アフリカ・ランド=6.24円です。

\* 資産、負債、元本及び基準価額の状況 \*

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,624,658,220円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	15,420,987
UBSグローバル・オポチュニティー （除く日本）株式マザーファンド(評価額)	2,599,237,233
未 収 入	10,000,000
(B) 負 債	11,892,420
未 払 信 託 報 酬	11,343,667
未 払 利 息	43
そ の 他 未 払 費 用	548,710
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	2,612,765,800
元 本	1,652,755,705
次 期 繰 越 損 益 金	960,010,095
(D) 受 益 権 総 口 数	1,652,755,705口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額 (C/D)	15,809円

(注記事項)

期首元本額 895,851,338円  
 期中追加設定元本額 1,044,661,834円  
 期中一部解約元本額 287,757,467円  
 1口当たり純資産額 1,5809円

\* 損益の状況 \*

(自2019年6月18日 至2020年6月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 10,451円
支 払 利 息	△ 10,451
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	89,623,314
売 買 益	117,222,952
売 買 損	△ 27,599,638
(C) 信 託 報 酬 等	△ 19,998,610
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	69,614,253
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	106,123,239
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	784,272,603
(配 当 等 相 当 額)	( 484,117,016)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 300,155,587)
(G) 計 (D+E+F)	960,010,095
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	960,010,095
追 加 信 託 差 損 益 金	784,272,603
(配 当 等 相 当 額)	( 485,646,419)
(売 買 損 益 相 当 額)	( 298,626,184)
分 配 準 備 積 立 金	175,737,492

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益（19,257,129円）、費用控除後の有価証券等損益額（50,357,124円）、信託約款に規定する収益調整金（784,272,603円）および分配準備積立金（106,123,239円）より分配対象収益は960,010,095円（10,000口当たり5,808円）ですが、分配を行っておりません。

# UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド

第4期（2020年6月15日決算）

（計算期間：2019年6月18日～2020年6月15日）

## 《運用報告書》

### 受益者のみなさまへ

「UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式マザーファンド」は、**UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用）／Bコース（ダイワ投資一任専用）**が投資対象とする親投資信託で、信託財産の実質的な運用を行っております。

ここにマザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

\* 当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	この投資信託は、主として日本を除くグローバル株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	主として日本を除くグローバル株式を投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

## UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町1-5-1  
大手町ファーストスクエア イーストタワー

<お問い合わせ先>

投信営業部

03-5293-3700

<受付時間>

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

http://www.ubs.com/japanfunds

### \* 設定以来の運用実績 \*

決算期	基準価額	期中騰落率	ベンチマーク	期中騰落率	株式組入率	投資信託証券組入率	純資産総額
	円	%		%	%	%	百万円
（設定日） 2016年9月26日	10,000	—	10,000	—	—	—	800
1期（2017年6月15日）	12,117	21.2	12,428	24.3	97.7	—	13,959
2期（2018年6月15日）	14,771	21.9	14,278	14.9	99.2	—	64,541
3期（2019年6月17日）	15,558	5.3	14,483	1.4	97.7	1.2	65,211
4期（2020年6月15日）	16,474	5.9	14,846	2.5	97.6	—	66,100

(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注3) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注4) ベンチマーク（MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース））は、設定日を10,000として指数化しております。

### \* 当期中の基準価額等の推移 \*

年月日	基準価額	ベンチマーク		株式組入率	投資信託証券組入率
		騰落率	騰落率		
	円	%	%	%	%
（期首） 2019年6月17日	15,558	—	—	97.7	1.2
6月末	15,669	0.7	1.0	95.3	1.1
7月末	16,158	3.9	3.8	94.2	1.2
8月末	15,452	△ 0.7	△ 1.4	96.7	1.3
9月末	15,453	△ 0.7	1.8	94.2	0.8
10月末	15,971	2.7	5.9	96.4	—
11月末	16,556	6.4	9.9	97.9	—
12月末	17,070	9.7	13.2	99.0	—
2020年1月末	17,387	11.8	13.4	98.4	—
2月末	16,143	3.8	4.5	99.3	—
3月末	14,406	△ 7.4	△ 11.1	97.6	—
4月末	15,584	0.2	△ 2.3	96.9	—
5月末	16,377	5.3	1.9	97.8	—
（期末） 2020年6月15日	16,474	5.9	2.5	97.6	—

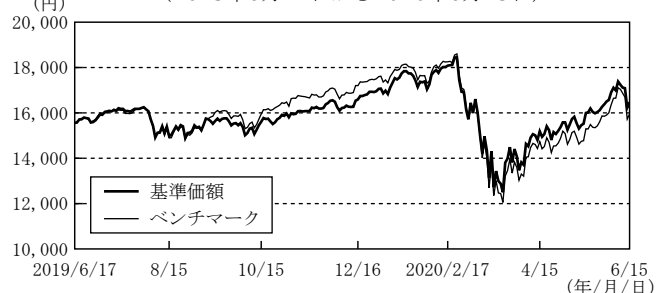
(注1) 基準価額は1万円当たり。

(注2) 騰落率は期首比です。

(注3) ベンチマーク（MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース））は、設定日を10,000として指数化しております。

### \* 当期の運用状況 \*

＜当期の基準価額等の推移＞  
（2019年6月17日から2020年6月15日）



※ベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で**916円**値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は**+5.9%**となりました。

### 投資環境について

当期のグローバル株式市場は小幅ながら上昇しました。市場別では、米国市場が上昇の牽引役となった一方、欧州市場は低迷しました。2019年後半から2020年序盤にかけては、米中貿易摩擦や英国の欧州連合（EU）離脱などの問題に進展が見られたこと、また米国を中心とした堅調な景気動向と企業業績などに下支えられて、グローバル株式市場は上昇基調をたどりました。しかし2020年の2月後半、中国で発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と経済活動の停滞に対する懸念から、リスク回避の動きが急速に強まり、グローバル株式市場は急落しました。3月後半以降は、各国政府・中央銀行による危機対応への評価、そして経済活動再開への期待などから、グローバル株式市場は米国を中心に反発しました。6月に入り、新型コロナウイルスの感染再拡大への警戒感から、グローバル株式市場の値動きが不安定になる局面もありましたが、結局、前期末をわずかに上回る水準で期末を迎えました。

### 運用経過

#### <ポートフォリオについて>

当ファンドは、日本を除く世界の株式を主要対象とし、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指す運用を行ってまいりました。なお、為替ヘッジは行っておりません。



○期中の主な動き

- (1) 投資比率を引き上げた主な業種・銘柄  
情報技術では、コロナ禍で加速する世界的な電子決済へのシフトと高い参入障壁を評価する米クレジットカード会社のマスターカードを買い増したほか、幅広い業界で進行するデジタル化への移行を取り込み、中期的な業績拡大局面が続くと見る米ITサービス大手のアクセンチュアや、クレジットカード利用の構造的拡大から恩恵を受ける米電子決済サービス会社のグローバル・ペイメントなどの新規購入により、セクターウェイトを大きく引き上げました。また素材では、寡占化の進行による競争環境の安定で業績の下方耐性が強まった一方、経済活動の停滞を嫌気して過度に割安度の高まった産業ガス会社、米エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズと仏エア・リキッドの新規購入により、セクターウェイトを引き上げています。
- (2) 投資比率を引き下げた主な業種・銘柄  
エネルギーについては、シェール増産による需給悪化（原油価格の下落要因）や、ESG投資が拡大する中で売り圧力の高まり、そして新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済の停滞とその回復を巡る不透明感など、業界を取り巻く環境が厳しさを増すことから、セクター全体として市場平均に出遅れる期間が長期化する可能性が高いと判断、英蘭オイル・メジャーのロイヤル・ダッチ・シェル、同じく英オイル・メジャーのBP、およびカナダの大手石油会社であるサンコー・エナジーをいずれも全売却とし、セクターウェイトを大幅に引き下げました。

※業種はMSCI分類に準拠しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドの基準価額の上昇要因は、主に組入株式の株価上昇などのプラス要因が、その他のマイナス要因を上回ったことにより、値上がりしました。

\* 1万口当たりの費用明細 \*

項目	当期 2019/6/18~2020/6/15		項目の概要
	金額	比率	
売買委託手数料 (株式) (投資信託証券)	6円 (6) (0)	0.041% (0.040) (0.000)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 株式などを取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料 投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税 (株式) (投資信託証券)	7 (7) (0)	0.045 (0.045) (0.000)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券売買の都度発生する取引に関する税金
その他費用 (保管費用) (その他)	2 (2) (0)	0.015 (0.015) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用 海外の税務手続きに関する費用等
合計	15	0.101	

※期中の平均基準価額は16,018円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

\* 期中の売買及び取引の状況 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

(1) 株 式

外国	買 付		売 付	
	株 数	金 額	株 数	金 額
外国	百株		百株	
アメリカ	37,140 ( 569)	千米ドル 450,995 ( 166)	42,068 ( 141)	千米ドル 469,050 ( 2,569)
カナダ	—	千カナダ・ドル —	2,336	千カナダ・ドル 9,357
ユーロ	千ユーロ		千ユーロ	
ドイツ	889	7,041	1,275	6,102
フランス	4,692	28,117	3,765	21,175
オランダ	5,321 ( 371)	27,332 ( 2,609)	382	1,589
フィンランド	2,929 ( 271)	9,455 ( —)	725	1,916
イギリス	16,026	千イギリス・ポンド 16,311	41,891	千イギリス・ポンド 56,170
スイス	1,512	千スイス・フラン 25,096	3,242	千スイス・フラン 30,374
デンマーク	973	千デンマーク・クローネ 42,270	—	—
オーストラリア	886	千オーストラリア・ドル 2,405	—	—
香港	94,210	千香港ドル 103,567	246,147	千香港ドル 222,147
韓国	2,236	千韓国ウォン 25,450,860	—	—
南アフリカ	555	千南アフリカ・ランド 173,548	288 ( —)	千南アフリカ・ランド 75,695 ( 42,294)

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(注3) ( ) 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分、上段の数字には含まれておりません。

<ベンチマークとの差異について>

当期中の騰落率は、基準価額の+5.9%に対してベンチマークが+2.5%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を3.4%上回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を上回った要因は、資本財・サービスセクターのアンダーウェイトやヘルスケアおよび情報技術セクターのオーバーウェイトがプラスに寄与したことなどです。

今後の運用方針

<投資環境の見通し>

グローバル株式は、もみ合う展開を予想します。米国では、一連の経済支援策に加え、金融緩和マネーが株式市場を押し上げています。想定以上の景気回復への期待は高いものの、全ての業種で収益が急回復する可能性は低く、新型コロナウイルス禍の中でも成長が期待できる業種・銘柄の選別が一層進むと見えています。今後は、企業業績の発表や大統領選の動向に関心が集まると見られ、楽観論や割高感が強まる中で、投資家の強気センチメントが急変する展開も想定されます。欧州では、欧州復興基金への期待から欧州株式を見直す動きは継続すると見えています。また、金融・財政政策の両面において、想定を超える結果と実施に期待が高まっています。一方、企業収益に関しては、経済活動休止の長期化を反映した業績見通しの下方修正は避けられず、欧州経済の回復に頓挫の兆しが見えた場合は、投資家心理が急速に冷え込む可能性も意識しておくべきでしょう。

<今後の運用方針>

上記の見通しを踏まえ、引き続き、世界の株式に投資を行い、トップダウンの市場・経済環境認識とボトムアップの個別銘柄選択を総合したアクティブ運用により、ベンチマーク対比の超過収益の獲得を目指してまいります。

(2) 投資信託証券

外国	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
アメリカ	—	—	—	—
SBA COMMUNICATIONS CORP	4,564	1,098	35,560	8,547
小計証券数・金額	4,564	1,098	35,560	8,547

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

\* 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合 \*

項 目	当 期
(a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額	138,178,925千円
(b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額	64,665,304千円
(c) 売 買 高 比 率 (a) / (b)	2.13

(注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

\* 主要な売買銘柄 \* (自 2019年6月18日 至 2020年6月15日)

(1) 株 式

銘 柄	買 付			売 付		
	株 数	金 額	平均 単価	株 数	金 額	平均 単価
COCA-COLA CO/THE(アメリカ)	463	2,668,064	5,762	461	2,171,999	4,706
ACCENTURE PLC-CL A(アメリカ)	95	1,997,980	20,845	231	1,997,965	8,613
MASTERCARD INC - A(アメリカ)	63	1,915,676	30,176	104	1,985,518	18,982
ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN(スイス)	44	1,733,741	38,968	115	1,903,842	16,436
MEDTRONIC PLC(アメリカ)	135	1,547,932	11,440	600	1,899,223	3,160
INTUIT INC(アメリカ)	52	1,507,139	28,851	159	1,843,250	11,561
ALIBABA GROUP HOLDING SP ADR(アメリカ)	75	1,501,488	19,804	186	1,736,792	9,289
ALPHABET INC-CL A(アメリカ)	10	1,495,524	146,462	52	1,561,815	29,898
CHARTER COMMUNICATIONS INC-4(アメリカ)	25	1,404,501	54,931	55	1,556,174	28,173
UNILEVER NV(ユーロ・オランダ)	230	1,377,933	5,981	164	1,547,545	9,391
COMCAST CORP-CLASS A(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
RECKITT BENCKISER GROUP PLC(イギリス)	—	—	—	—	—	—
FACEBOOK INC-CLASS A(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
MICROSOFT CORP(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SIS(イギリス)	—	—	—	—	—	—
NESTLE SA-REG(スイス)	—	—	—	—	—	—
ABBOTT LABORATORIES(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
INTUIT INC(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
ANTHEM INC(アメリカ)	—	—	—	—	—	—
NOVARTIS AG-REG(スイス)	—	—	—	—	—	—

(注) 金額は受け渡し代金。



(2) 外国投資信託証券

\* 損益の状況 \*

(自2019年6月18日 至2020年6月15日)

銘柄	期首	当期末		比率
	口数	口数	評価額	
(アメリカ)			外貨建金額 邦貨換算金額	
SBA COMMUNICATIONS CORP	30,996	—	—	—
合計	口数・金額	30,996	—	—
	銘柄数<比率>	1	—	<—%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。  
 (注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。  
 (注3) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。  
 (注4) ー印は組み入れなし。

項	目	当	期	末
(A)	配当等収入			828,640,527円
	受取配当金			824,672,489
	受取利息			3,975,525
	支払利息			△ 7,487
(B)	有価証券売買損益			2,634,551,373
	売却益			10,102,194,102
	売却損			△ 7,467,642,729
(C)	信託報酬等			△ 10,193,802
(D)	当期損益金(A+B+C)			3,452,998,098
(E)	前期繰越損益金			23,297,601,746
(F)	追加信託差損益金			6,588,815,458
(G)	解約差損益金			△ 7,362,298,054
(H)	計(D+E+F+G)			25,977,117,248
	次期繰越損益金(H)			25,977,117,248

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

\* 投資信託財産の構成 \*

(2020年6月15日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
株式	千円 64,492,423	96.6
コール・ローン等、その他	2,281,183	3.4
投資信託財産総額	66,773,606	100.0

(注1) 金額の単位未満は切り捨て。  
 (注2) 当期末における外貨建純資産(66,277,685千円)の投資信託財産総額(66,773,606千円)に対する比率は99.3%です。  
 (注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=107.24円、1カナダ・ドル=78.66円、1ユーロ=120.68円、1イギリス・ポンド=134.14円、1スイス・フラン=112.71円、1スウェーデン・クローネ=11.48円、1デンマーク・クローネ=16.19円、1オーストラリア・ドル=73.06円、1香港ドル=13.84円、100韓国ウォン=8.88円、1南アフリカ・ランド=6.24円です。

\* 資産、負債、元本及び基準価額の状況 \*

(2020年6月15日現在)

項目	当	期	末
(A) 資産			67,130,100,737円
コール・ローン等			1,972,067,710
株式(評価額)			64,492,423,232
未収入金			602,962,565
未収配当金			62,647,230
(B) 負債			1,029,155,738
未払払金			847,155,724
未払解約金			182,000,000
未払利息			14
(C) 純資産総額(A-B)			66,100,944,999
元本			40,123,827,751
次期繰越損益金			25,977,117,248
(D) 受益権総口数			40,123,827,751口
1万口当たり基準価額(C/D)			16,474円

(注記事項)  
 期首元本額 41,914,345,155円  
 期中追加設定元本額 11,439,184,542円  
 期中一部解約元本額 13,229,701,946円  
 1口当たり純資産額 1,6474円

[当マザーファンドの当期末における元本の内訳]

UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式ファンド（FOFs用）（適格機関投資家専用） 23,014,930,691円  
 UBSグローバル・オポチュニティー（除く日本）株式ファンド2018（適格機関投資家向け） 12,809,251,237円  
 UBSグローバル株式厳選投資ファンドAコース（ダイワ投資一任専用） 2,721,864,329円  
 UBSグローバル株式厳選投資ファンドBコース（ダイワ投資一任専用） 1,577,781,494円